

会 議 録

会 議 名	令和5年度第1回野田市公共下水道運営審議会
議題及び議題毎の公開又は非公開の別	1 野田市公共下水道事業の概要及び整備状況について（報告）（公開） 2 野田市公共下水道事業財政状況について（報告）（公開） 3 野田市下水道事業経営戦略の事業評価について（報告）（公開）
日 時	令和5年10月12日（木） 午後2時から午後4時まで
場 所	野田市役所高層棟8階 大会議室
出席委員氏名	斎藤博、鷺尾真由美、竹村圭介、守安邦弘、岡田武治、五百川和家恵、石原和子、上原奈加、上口清彦、山本泉
欠席委員氏名	廣田有里、新玲子、福田正、田口さゆり
事務局	鈴木有（市長）、小田川豊（建設局長）、飯塚等（土木部長）、高橋康仁（土木部次長兼管理課長）、荒井哲也（下水道課長）、勝田等（下水道課長補佐）、佐野真次（下水道課副主幹兼経営係長）、川俣亮成（下水道課工務係長）、濱野明子（下水道課業務係長）、我妻真由美（下水道課主査）、小島佐智子（下水道課主任主事）、中野浩志（下水道課主任技師）、湯沢和寿（下水道課主任主事）、浅海恵莉（下水道課主事）
傍 聴 者	1名

議	事	<p>令和5年度第1回野田市公共下水道運営審議会の議事は、次のとおりである。</p> <p>開会</p> <p>令和5年10月12日午後2時、開会を宣言し、委員10名が出席しており会議が成立していることを報告した。会議の公開及び傍聴並びに会議録及び会議資料の公開について説明した。会議録の作成のため録音機を使用することについて了解を得た。</p> <p>挨拶</p> <p>本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>また、日頃から皆様方には市政運営全般にわたりまして、御支援、御協力を頂きますことを厚く御礼申し上げます。</p> <p>さて、令和5年度の初めての審議会でございます。引き続き委員の方、また新たに委員になられた方もいらっしゃると思いますが、当審議会の委員として御就任いただきますことに感謝申し上げます。</p> <p>今年も暑い日が続き、最近やっと秋らしくなった訳ですが、コロナウイルス感染症も、インフルエンザと同じ、5類感染症になりましたが、終息には至っていないという中で、インフルエンザが非常に蔓延しており、とても気になるところでございます。</p> <p>特に小中学校では、インフルエンザで学級閉鎖や学校閉鎖となっていることもあるので、感染症対策をしっかりしていただければ有り難いと思います。</p> <p>さて、令和2年度から下水道事業につきましては、公営企業会計に移行したところですが、このことにより、財務諸表により経営状況を把握し分析することで、下水道事業の経営の健全化を進めるとともに、収益の大部分を占める下水道使用料について、今後も安定的に確保するため、汚水の面整備を推進して参りたいと考えております。</p> <p>また、雨水整備については、関宿地域の宝珠花地区と、野田地域の山崎地区で実施している浸水対策事業について、引き続き推進してまいりたいと考えており</p>
下水道課長補佐		
市	長	

	<p>ます。</p> <p>本日は、一つ目として下水道事業の概要及び整備状況、二つ目として下水道事業財政状況、三つ目として野田市下水道事業経営戦略の事業評価、以上3点について報告させていただきます。委員の皆様には、忌憚<small>きたん</small>のない御意見をいただきますようお願いいたします。</p>
<p>下水道課長補佐 斎藤会長</p>	<p>〈委員の紹介をした。〉</p> <p>会長挨拶</p> <p>会議録署名人に五百川委員、石原委員を指名する。</p> <p>報告第1号 野田市公共下水道事業概要及び整備状況について。</p>
<p>下水道課工務係長</p>	<p>〈報告第1号 野田市公共下水道事業概要及び整備状況について説明〉</p>
<p>斎藤会長 山本委員</p>	<p>報告第1号について、質疑等があるか問う。</p> <p>今年の6月上旬だったと思うのですが、野田市のまめメールで、松戸市の方で雨水が流れ込んで下水道管があふれそうになっているため、千葉県下水道課からトイレや風呂の使用を控える要請がきていると配信されたと思うのですが、あの時の話はどういうことだったのか、流域下水道の方があふれそうになったのか、その辺がよく分からなかったもので、分かれば説明していただけないでしょうか。</p>
<p>下水道課長</p>	<p>今の御質問についてですが、6月2日に台風の影響により、かなり野田地域も大雨が降りまして、流山市や松戸市も同様に大雨が降っている状況でした。</p> <p>それで、今回まめメールで配信させていただいたところですが、汚水の方の流域の幹線のあふれということなのですが、通常、汚水というのは雨水と分離されているので雨が降ったからといって汚水管が溢れるということはないのですが、正直なところ、野田・流山・松戸地域のところで少なからず、雨の流入があったというのは実情としてございます。</p> <p>そういったことがある中で、今回この台風に伴い、汚水管の容量を超える汚水が流れてきていると、流域管ですので、松戸市のところで一度ポンプアップをし</p>

山本委員	<p>て、また市川市の終末処理場まで流れる、というような状況でございます。ポンプ施設のところで、ポンプでくみ上げる容量よりも上流から流れてくる汚水が多くなり、その部分であふれだしたということがあったものですから、その流域幹線に関連する上流のところの市町村の汚水については、排水の方を控えていただければと、ということがございましたので、今回のような内容でメールを配信させていただいた状況でございます。</p>
下水道課長	<p>確認ですが、野田市だけでなく、松戸市や流山市も分流式でやっているのですか。雨水と汚水別ですか。</p>
山本委員	<p>流域関連ですので、流山市も松戸市も分流式で整備しております。</p> <p>報告1号の1ページ、1として「公共下水道（汚水）整備計画の概要」ですが、これを見ると最初の3行は別にして、3つのパラグラフで構成されていると思うのですが、第一パラグラフが汚水、第二パラグラフが雨水、第三パラグラフが施設の概要で雨水と汚水の要件という部分がきている。それぞれ表題に「公共下水道カッコ汚水」と書く意味があるのかなど。</p> <p>何か、汚水だけなのかと思ったら、雨水の話も出てきて、その辺が気になりました。</p> <p>それから、1ページの下から2行目ですが、第1期計画期間が令和5年度で終了ということなのですが、今度、この次の計画を作るというお話がありましたが、この第1期計画での計画の達成状況について、分かったら教えてください。</p>
下水道課工務係長	<p>第1期計画のストックマネジメント計画に基づく、施設の修繕、改築ですが、予算の確保等にも苦慮しております。例年、半分程度の予算しか付かないという中で事業を進めております。当初は、5年目に工事まで実施する予定でございました。</p> <p>しかし、やはり予算が予定どおりにとれないということで、まずは、点検調査、その後に、計画を練って、実施設計をして、工事と。この5段階を踏むのですが、実際、現段階で申しますと、今年度、計画を策定して、来年度、詳細設計、実施設計を行って、その</p>

<p>山 本 委 員</p> <p>下水道課工務係長</p>	<p>翌年度から工事を実施するような形になっております。少し遅れが生じているということです。</p> <p>そうすると結局、事業ベースでいうと100%ではなくて、98パーセントぐらいで、その分は次期計画に盛り込まれる、そういうことになるのですか。</p>
<p>山 本 委 員</p> <p>下水道課工務係長</p>	<p>はい。また見直しを行いまして、今の計画でどこが悪いのか、それも改めて再認識し、次期計画に。もちろん、現在行われていない当初計画しておりました事業も含めて、再度計画を総合的に見直しまして、新たな第2期計画を策定するということです。</p>
<p>山 本 委 員</p> <p>下水道課工務係長</p>	<p>この阿部沼の方の用水路の話をしてほしいのですが、先ほど補助率が二分の一という話がありましたが、この補助率二分の一とは国費が二分の一という意味ですか、それとも県費が入っているのか教えてください。</p>
<p>山 本 委 員</p> <p>下水道課工務係長</p>	<p>ここは起債であったり、市単であったり、そういうような費用が入っております。</p>
<p>山 本 委 員</p> <p>下水道課工務係長</p>	<p>あと、B/Cのところですが、13ページ費用対効果ですが、この事業でこのB/Cをみるのは、ハードの部分だけですか。つまりソフト事業を行うというような話が先ほどあったと思うのですが。ソフトは、費用的には大したことはないと思います。見出しを見ると、これはハードだけなのかどうか。</p>
<p>山 本 委 員</p> <p>下水道課工務係長</p>	<p>ソフトは見ておりません。ハード面だけでの評価になっております。</p>
<p>山 本 委 員</p> <p>下水道課工務係長</p>	<p>ソフト事業のところの内水ハザードマップのお話があったかと思うのですが、内水のハザードマップは、今、野田市で作っているのですか。</p>
<p>山 本 委 員</p> <p>下水道課工務係長</p>	<p>内水ハザードマップにつきましては、今年度、実際の浸水箇所を特定するために、まずは、浸水シミュレーションを実施しております。</p> <p>まだその成果は出てきておりませんが、今年度中に浸水シミュレーションをして、どこが浸水地区なのか、それに基づいて、来年はハザードマップに発展させていく。そこに、避難経路であったり避難場所であったり、詳細な情報を詰め込んでいく、そういう作業を来年度に実施します。</p>

山本委員 下水道課工務係長	この事業で実施するということですか。 この事業は、あくまで阿部沼の浸水対策のみで、内水ハザードマップは、別の事業になります。補助金は、こちらの個別補助ではなく、防災安全交付金になります。
山本委員 下水道課工務係長	ここに書いてあるのは、周知ということですね。
山本委員 下水道課工務係長	ソフト対策ということで周知のみです。
山本委員 下水道課工務係長	外水氾濫のハザードマップは、よく見ますが、内水のハザードマップは見たことがなかったので、これから作るということですね。
山本委員 下水道課工務係長	内水のハザードマップも令和8年度までに策定と国から要請がありますので、それまでに策定は終わらせたいと考えております。
山本委員 下水道課工務係長	15ページ、便益の方の5年降雨確率と既往最大降雨に対する対策前対策後の比較があると思うのですが、これは床下で、床上浸水は11,004平米から60平米に変わると、そのあとに対策後の床上浸水は、道路冠水と書いてあるのですが、分からなかったので教えていただけますか。
山本委員 下水道課工務係長	分かりにくい表記で申し訳ありません。こちらは、直接家屋に係る被害ではなく、45センチメートルを超える道路冠水ということで、この60平米については、道路冠水という扱いになっております。
山本委員 下水道課工務係長	床上浸水が60平米になる、という意味ではないですか。
山本委員 下水道課工務係長	はい、家屋はございません。
山本委員 下水道課工務係長	その上の床下浸水の場合は、88,000平米が対策前、対策したら13,000平米に減ったということですね。それと同様に考えたのですが、最大降雨の床上浸水は11,000平米だったけれども、対策すれば60平米に減ったと理解したのですが。
山本委員 下水道課工務係長	ただ、60平米については、家屋に直接被害を及ぼす60平米ではなく、道路冠水の部分で45センチメートルを超えるものが出てきてしまったので、ここには60平米を載せています。家屋、床上浸水という考え方で言いますと、ゼロ件です。
山本委員 下水道課工務係長	ゼロなのですね。

下水道課主任技師	<p>分かりました。そこの意味がよく分からなくて。そうするとその上の床下浸水でも同じ道路冠水という概念は出てこないのですか。同じような理屈のような気がするのですが。</p> <p>評価上の問題で45センチメートルを超える水が溜まった箇所、という表現となっておりまして、それが今回たまたま道路で45センチメートルの水が溜まるという形になります。</p> <p>これが、B/C策定マニュアルの表現でいうところのこのような表現になってしまうのですが、実態としては45センチメートル、道路で水が溜まっている、というような形になっております。</p>
山本委員長 建設局長	<p>そうすると、床下浸水も同じなんですね。</p> <p>概念とすると、面で浸水範囲を表現しているの、その中に宅地もあれば道路も含まれる。床下か床上かの定義が45センチという数字の違いだけであって、範囲とすると道路も家屋も含まれるというのが、まずスタートです。したがって、たまたま床上45センチメートルをオーバーするところについては、その範囲が60平米だったけれども、そこは実は、結果として道路だったということです。</p>
山本委員 下水道課工務係長	<p>そうしますと、床下というのは45センチメートルではなく、もう少し低いのですか。</p> <p>床下20センチメートルから45センチメートル未満です。</p>
上口委員	<p>先ほど、山本委員から質問がありました、松戸市で冠水があって、流量の調整の依頼があった、という野田市のまめメールですが、実際にその後どうなったのですか。不明水というのは、多分、配管の接続ミスだと思うのですが、その対策は、もうしているのですか。</p>
下水道課長	<p>雨水の流入対策ですが、我々もずっと前から不明水があるというのは承知の上で調査をしているのですが、調査をした中で発見できるのところと、できていないところがございます。これを、ストックマネジメント計画の中で、管路の調査、具体的にいうとその管の中にテレビカメラを入れて、管路の状況を確認して不</p>

<p>上 口 委 員</p>	<p>明水が入りそうなところを指定して、そこを順次直していく、というような作業を現在、行っているところ です。</p> <p>この間の6月2日の雨水流入の後に、すぐ直るかという と少し時間がかかり、スパンの長い作業になると 思いますので、我々も今後、十分に確認をして対策を していきたいと思います。</p> <p>まめメールで、重大事項を市民に通達したのであれ ば、その後の経過の分かるメールも流していただき たい。それをしないと、いつまで継続するのか市民には 判断がつかないと思うのです。</p>
<p>下 水 道 課 長</p>	<p>我々からは、今回のまめメールで下流側のポンプ施 設は通常通り使用できるので、御使用を控えていただ かなくても大丈夫です、というメールは配信しており ます。もし、届いていないのであれば、大変申し訳ご ざいませんでした。</p> <p>我々としては、それを皆様にお知らせしたことで、対 応したという認識でございます。</p>
<p>上 口 委 員</p>	<p>私の見落とししかもしれませんね。</p> <p>次に、17ページ、関連のある14ページ両方です。</p> <p>計画降水量を50.0mm/hで計画している、既往最大降 雨が74.0mm/hと記載されているのですが、市又は県で は、今後もこの降水量が妥当である、と。私は体感的 にこの3年間くらいずっと降雨量を見ていますが、局 地的には、この量をはるかに超える雨量が降ってい ます。例えば、私のいる地面から道路まで50センチメ ートル～1メートルくらい段差があるのですが、宅地 であるのに水があふれます。これは明らかに75ミリメ ートルとかそんなレベルではないと思います。ただ、基 準を大きくしてと言っているわけではなく、将来にわ たって74ミリメートルで対応できるのかどうか検討し ていただきたい、と申し上げているのです。</p>
<p>下 水 道 課 工 務 係 長</p>	<p>お話のとおり、実際、今の下水道計画は50ミリメ ートルという降雨量によって施設計画されています が、河川でいうと100mm/h安心プランなど、いろいろ ございます。今後、そういう河川部局も含め、治水対 策として今後50ミリメートルが妥当かどうか、今後の</p>

<p>上 口 委 員</p>	<p>課題だと思しますので、県、国も含め、協議をしたいというのが本音でございます。</p> <p>ぜひ調整、検討いただきたいと思ひます。</p> <p>11ページの中央のところでは、</p> <p><small>かんきょ</small> 管渠築造年度金額が出ています。令和10年、11年、12年のところが、7億1,500万円、3年間続いているのです。今ではなく、なぜ、後回しにするのか疑問です。現在、あふれるぐらいの雨量が降っているわけですから、この予算を前倒しにしてもいいのではないかと、思っています。今、令和5年ですから、すぐに対応は難しいと思ひますが、7年、8年、9年度の予算に前倒しすることが可能なかどうか、またそうすることによって、市民の安全な居住ができる、ということも念頭に考えてほしい、ということで提案します。</p>
<p>下水道課工務係長</p>	<p>お話のとおり、平準化が図れば一番いい話なのですが、ただどうしても施設というのは、調整池を作ったり、それを一基作ったり、二基を同時に作ったり、また、併せて幹線を整備したりなど、年度年度によって整備する事業量というのが変わってきます。こちらに予算を記載いたしました、今の整備計画では、この予定で整備していくということになります。</p>
<p>下水道課長</p>	<p>阿部沼の方は、1号から3号調整池の3つの調整池と幹線の2か所を整備しているということになります。</p> <p>まず、最初の調整池を整備するということを念頭に作業を進めているわけですが、先ほど申し上げた3号は、既に整備を完了しており、現在は、1号の整備を行っているところです。2号はというと、地権者がおりますので、まず、用地の買収の交渉という作業が伴ってきます。今年度からその作業を始めた状況で、そういったところで時間がかかる部分もありますので、御意見のありました前倒しにつきましては、地権者の皆様の意向を踏まえ、進めていかなければならないという、諸事情だけ御理解いただければと思ひます。</p>
<p>上 口 委 員</p>	<p>事情はよく分かります。</p>

	<p>ただ、これは市の考え方と市民の考え方と随分差があります。市民の方は、今、御説明いただいたことが理解できるかという、理解しません。市の論理が一般に通用するかといったら、私は通用しないと思います。むしろ市の皆様が、このような状況の中で、どうしたら打破できるのかという考え方をすれば、市民が安全に暮らせるのではないのでしょうか。</p>
下水道課長	<p>今、委員からお話のあった内容については、我々も重々承知しております。御意見を頂いた中で、今後の下水道事業の運営については、改めて修正等を行っていききたいと思います。</p>
上口委員	<p>前向きにとらえていただいているのは、よく分かります。ただ、私は代弁者として来ていますので、ここで何も言わないで帰ってしまったら委員として役に立ちませんので、その辺、御承知おきください。</p>
竹村委員	<p>18ページの 2. 確認項目及び確認結果 の表で、上方 1. 事業の必要性等に関する視点の (2) の一番下に感度分析が適切に実施されている、という項目があるのですが、この感度分析とは何か、今回の事業に関してはどのようなものなのか、説明していただきたい。</p>
下水道課工務係長	<p>この感度分析につきましては、費用効果分析で設定しました。前提条件として、工事費、事業期間、及び便益費に換算した資産価格などがございまして、景気の変動などによって前後する場合があります。また、工事の期間が延びたり縮まったり、費用が増大したり縮小したりといろいろなケースがございます。</p> <p>算出した額を基準としまして、±10%の値の中で、こちらの分析結果の影響に関する把握をするというのが感度分析でございます。例えば、工事費が上回りますと、もちろん費用便益比が下がります。工期が延びればその分だけ費用便益比が下がる、逆に短くなれば費用便益比が増えることとなります。それは、±10%の中で分析をしているというのが、この感度分析にあたるところです。この感度分析を行った結果、例えば、マイナスの方向、要するにあまり良い条件ではない方向にしたとしても、1%を下回らないことが確認</p>

<p>斎藤会長</p>	<p>できております。 ほかに質疑等があるか問う。 〈質疑等無し〉 報告第1号の終了 報告第2号 野田市公共下水道事業財政状況について。</p>
<p>下水道課副主幹兼 経営係長 斎藤会長 山本委員</p>	<p>〈報告第2号 野田市公共下水道事業財政状況について説明〉 報告第2号について、質疑等があるか問う。 最初に下水道料金のことですが、市民の場合、上下水道の料金は一緒に取られているのですが、水道料金はコロナのときに基本料金を免除したことがあったかと思えます。水道料金の徴収が減っていたのですが、下水道はそういうのが多分なかったと思うので、所管の違いもありますが、考え方の違い、その辺りは、どういう形になるのでしょうか。</p>
<p>下水道課副主幹兼 経営係長 山本委員</p>	<p>水道料金につきましては、ほぼ市内全域に水道が普及していますので、市民全体の話になります。ただ、下水道につきましては、市全体ではなくて市街化区域内の認定された区域、整備された中で使用している方に対してのもので、市民全体に対してのことではありませんので、そのような違いがあります。</p>
<p>下水道課副主幹兼 経営係長 山本委員</p>	<p>平等不平等の可能性はある、そういうことですね。 報告第2号の1ページ、2ページ、収益的収支と資本的収支を付けていただきました。収益的収支の5,500万の特別利益の説明で県からの精算金と言われたと思えますが、流域下水道か何かの関係ですか。</p>
<p>下水道課副主幹兼 経営係長 山本委員</p>	<p>はい。当市は、江戸川左岸流域下水道の関連市になっております。その終末処理場の維持管理費の関係経費につきまして、他市と同様に負担金として支出しております。その精算金です。 還付金となれば特別利益として出てくる。もし、例えば追徴があった場合、追徴となれば特別損失という扱いで良いのかどうか。精算というには、この5,000万円は結構大きな数字のような気もしますが、支出の方を見ると、この流域下水道に対して7億5,000万ほどですね。この内訳の内の5,500万円が返ってきたと</p>

<p>下水道課副主幹兼 経 営 係 長</p>	<p>というイメージでとらえてよろしいのですか。</p> <p>今回の7億5,000万円という数字を仮に支払いしたとして、翌年度になって決算として精算した結果、この一部が返ってきます。</p> <p>なお、追徴が発生した場合には、特別損失という形でお支払いすることになります。</p>
<p>山 本 委 員</p>	<p>一般的な話になるかと思うのですが、こちらの資本的収支の建設改良費、いろいろお金が掛かってくると思いますが、例えばインフレで、労務費なども上がっているかと思うのですが、来年4月から建設業の時間外労働の上限規制の話がありますよね。4月1日から適用されることになると思うのですが、工事関係の契約は、今後、資本的支出にどのくらい影響が出ると考えていますか。</p>
<p>下 水 道 課 長</p>	<p>今、お話にあった労務費などは、当然、上半期下半期で国で見直しを行いまして、それに伴って、工事費が今までより下がるということはなく、上がっていく一方のような状況です。通常は、例えば令和5年度の工事を行った時に、当初契約で4月当初に契約した工事が来年の3月までとなると、当然その中で、労務費の見直しがあります。その労務費の見直しというのがどのように処理されているかというのと、工事費の当初の契約よりも当然、労務費が上がってきますので、その見直しをしてほしいという業者からの申し出によって見直しをし、適正な価格で再積算をして、増額分については、予算の範囲内でお支払いする状況でございます。</p> <p>来年度の予算については、基本的な公共団体の予算の仕組みと言いますのは、最初に6月頃に来年度予算の大体の概算要求を実施します。10月、11月頃には、本要望と言いまして、最終的な取りまとめをして、国の方に提出をするような状況になっており、その中で労務費というのは、現在の単価を参考に積算をして予算を計上します。</p> <p>ただ、それが来年度どうなるのかというと、例えば、それが予算の範囲内で、また先ほどのお話のとおり、年度当初と年度末というところで値段が違って、</p>

	<p>予算範囲内で払えるものがあるならば、当然支払いますが、なかなか予算の範囲で難しそうだというときは、事前に我々の方でも積算書で分かりますので、当初予定していた工事を1か所取りやめるとか、そういったところで予算を調整しながら、労務費の上昇分について、そこで賄うなど、予算の中でできる範囲をやっていく形で事業を進めております。</p>
山本委員	<p>今、もし単価が上がった場合、業者からの申入れを受けているというようなお話があったと思うのですが、それは例えば契約上、いわゆる一般条項で行うのか、又は単価ごとにスライド条項というのを設けておいて、それによって調整するのか、その辺りはどのようなやり方でやっているのか。</p>
下水道課長	<p>お話にあった後者のスライド条項の中で、処理をさせていただいている実情でございます。</p>
山本委員	<p>企業債のところの説明だったと思うのですが、企業債の発行額が決算ベースで4億8,000万円、逆に支出償還金の方で11億円なので、当然減っているんだろうと思います。フローの数字は分かるのですが、ストックの数字として現在の企業債の残高というのは、大体どれくらいあって、それは他の市町村と比べると、多いのか少ないのか。</p>
下水道課副主幹兼 経営係長	<p>野田市の企業債の残高ですが、おおまかに申し上げますと、令和4年度末の残高の合計なのですが、おおよそ125億900万円ほどの残高です。</p>
山本委員	<p>これは、市の規模でいうとどういうイメージなんですか。市の規模というか下水道事業の規模というか。</p>
下水道課副主幹兼 経営係長	<p>申し訳ございません。流域下水道の関連市のそういった比較がないので、一概に野田市が多いのか少ないのかは、数字で比較するものがございません。今言えるのは、貸借対照表で表示している残高の数字が先ほど申し上げた数字になっていることです。</p>
山本委員	<p>起債の今のおおよその金利、償還期限は、大体どれくらいか。起債の償還期限と金利はどの程度なのか。</p>
下水道課副主幹兼 経営係長	<p>償還期間は、ほとんどが30年償還です。据え置き期間5年、元金償還25年の合計30年の償還です。近年の金利なのですが、直近に借り入れしたものは、1.3%</p>

<p>山 本 委 員 下水道課副主幹兼 経 営 係 長 山 本 委 員 上 口 委 員</p>	<p>になります。 1.3%ですか。 はい。最近、率が上がっていますので。以前は1%を切っていたのですが。 以前は1%なかった気がしたものですから。</p>
<p>山 本 委 員 上 口 委 員</p>	<p>以前から申し上げてきたことですが、公共下水道の接続区域になって、私のところは12年になるのですが、両隣が接続してません。このように接続していないと、いわゆる受益者負担がないものですから、収入が減ることになります。これに対して、是非今まで以上に促進をしていただきたいです。実は私のところも浄化槽区域でしたが、本下水道に切り替えて12年がたち、未だに汚水処理、浄化槽の匂いがするのです。接続していない方がたくさんいるというのが良く分かります。私は、一軒一軒調べたわけではありませんが、浄化槽のくみ取りのステッカーが、まだ、たくさん貼ってあります。この状況に何とか対応いただきたいと思っています。 そうすると、減少分の6,300万円、これが減ってくるのではないかと思います、いかがですか。</p>
<p>下 水 道 課 長</p>	<p>我々も整備済区域の中で未接続、いわゆる浄化槽を使っている方々が一定数いることは、存じ上げている中で臨戸訪問などの手法をもちまして、皆様になるべく接続してください、というお願いはしている状況でございます。下水道法では、浄化槽が設置されている、いわゆる水洗化されているところについては、おおむね遅滞なく1年以内と定められていますので、この辺の事情を説明しながら、皆様に御協力をお願いしている状況でございます。ただ、まだどうしても理解が得られなくて、接続されていないという方が非常に多くいらっしゃいますので、そこは今後の経営状況も考えながらいきますと、我々としてはどんどん接続していただきまして、下水道使用料の徴収率を上げていきたいと考えておりますので、その提案をもう少し創意工夫をもって今後進めていきたいと考えております。</p>
<p>上 口 委 員</p>	<p>今、浄化槽の件がありましたよね。清掃の件も併せ</p>

<p>齋藤会長</p>	<p>て一年間、今、浄化槽の補助金も使いますと、契約時に清掃料金と点検料金とを一緒に支払うようになっていきます。</p> <p>ただ、既存の方の場合はそれをしていないのです。ですから、くみ取り、清掃、点検についても、もう少しきめ細かく指導していただければ有り難いです。</p> <p>ほかに質疑等があるか問う。</p> <p>〈質疑等無し〉</p> <p>報告第2号の終了</p> <p>報告第3号 野田市下水道事業経営戦略の事業評価について。</p>
<p>下水道課副主幹兼 経営係長 齋藤会長 山本委員</p>	<p>〈報告第3号 野田市下水道事業経営戦略の事業評価について説明〉</p> <p>報告第3号について、質疑等があるか問う。</p> <p>2ページ目の(2)のところ、地震に対する備えに進捗率とあり、前のページにも事業費ベースで進捗率とあったのですが、これも事業費ベースですね。それを書かれた方が分かりやすいと思いました。</p> <p>それから、(3)の施設、管路の老朽化の話ですが、全国でいろいろなこと、道路の陥没の事故などがあると思うのですが、所管が違うかもしれませんが、陥没の有無などの調査を野田市では行われていますでしょうか。</p>
<p>下水道課長</p>	<p>道路陥没の今の所管は、土木部の道路サービス課で、調査は実施しております。今年度は保険会社と契約している方の、いわゆるドライブレコーダーを用いて道路の状態がどうなっているかというデータをピックアップして、それに基づいて道路の状況を我々の方で把握する、というようなことに取り組んでおります。今、市では陥没等があれば、パトロールをする実施部隊を別に設け、日々そういう穴埋めの作業を実施している状況でございます。</p>
<p>山本委員</p>	<p>3ページ目、3 安定のところ、先ほど説明にあった、戸別訪問、その後の融資あつせん、あるいは利子補給制度があったと思うのですが、これの対象となる家庭、又は、現在利用している家庭というのは、どの程度あるものなのか。</p>

下水道課長	<p>利子補給制度については、切替工事に伴い、工事費用が発生することになります。その費用を提携している金融機関と取決めをして、まず融資をあっせんし、その利子の分だけを市で補填していくというような制度になっております。ここ数年は申請がなかったのですが、今年度は、現在1件、この制度を利用しています。もう1件相談がありまして、今、その手続を進めている状況でございます。今年度は、今のところ2件という状況です。</p>
上口委員	<p>報告第3号は、野田市公共下水道事業ではないですか。表題に公共が抜けているような気がするのですが。</p>
下水道課長	<p>大変失礼いたしました。公共が抜けておりました。訂正してお詫びさせていただきます。本当に申し訳ございませんでした。</p>
下水道課副主幹兼 経営係長	<p>お手元に配付した資料の中で、経営戦略の冊子の写しをお配りしておりますが、この表題が、野田市下水道事業経営戦略という名前になっております。こちらの表記に合わせて野田市下水道事業経営戦略の事業評価と表題の方に書かせていただきました。野田市公共下水道ではないかという御意見を踏まえ、今後の表記について対応を考えていきたいと思っております。</p>
上口委員	<p>先ほど、山本委員からお話がありましたが、公共下水道と雨水、それからポンプ場、この使い方の明確な分離が分かりにくいので、今後記載するときは、明確に分かるように記載していただきたいと思っております。</p>
下水道課長	<p>お話にあったとおり、正直我々の方で、いわゆる今までの経験値で記載していたり、記載していなかったり、そういったところがありましたので、そういうことをまず統一して、分かりやすくしていきたいと思っております。</p>
竹村委員	<p>最後の表の水洗化率ですが、R12の目標値のところは括弧書きで93.7%という数字が記載されていますが、これはどういう数字ですか。</p>
下水道課副主幹兼 経営係長	<p>この、現状以上の93.7%ですが、当時、経営戦略を策定した時に水栓化率93.7%だったのです。そのた</p>

竹 村 委 員	<p>め、それ以上、ということで参考推奨として、93.7%と書いております。</p> <p>という事は、一度水洗化率が下がったということでしょうか。</p>
下水道課副主幹兼 経 営 係 長	<p>水洗化率ですが、下水道整備が進められていくと処理区域内人口が増えていく話になりますので、分母が増えていきます。それに対して、接続が追い付かないので、どうしても水洗化率が多少下がる傾向になる場合がございます。その結果その数字となっております。</p>
齋 藤 会 長	<p>ほかに質疑等があるか問う。</p> <p>〈質疑等無し〉</p> <p>報告第3号の終了</p> <p>そのほかに事務局からありますか。</p>
下 水 道 課 長	<p>次回の開催日時を報告する。</p> <p>その他質問等がないため、審議についてお礼を述べて、午後4時4分、閉会を宣言した。</p>